

さわがせ

号数 第 3 2 1 号
発行日 令和 3 年 5 月 16 日
発行所 金光教 靴教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



勧学祭に参拝した子どもたち(4月11日)

コロナ感染症蔓延の中での御大祭

教会長 鍵山 公生

毎日コロナウイルス感染症は衰えることなく、私たちの側まで忍び寄ってきています。4月24日から3回目の緊急事態宣言が出され、5月末まで続いております。その間にも感染される方が出ています。

ワクチンの投与案内がそろそろ私たちの手元に届き、既に一回目のワクチンを受けた方もありますが、すべての国民に行き渡るのはまだまだのようで、靴教会では一日も早く終息されるよう、毎日祈願詞を奉唱させていただきます。

樹木の根の働き

寒い冬の間は何の変化もないかに見える植物は、土の中の根っこや幹の内部では、来たらん春に芽を出し、花を咲かせ、実をつけるための準備をしているのです。私たちもこの苦境において、ただ恐れるばかりではなく、安心な生活を歩ま



せていただくため、今こそさせていただきますべきことは何かと考えるのです。

教祖様は明治6年にお上の取り締まりで、お取次ぎのご用を差し止められたことがありました。そこでお社をはじめ神様のしつらえものなど全て片付けられ、隣の部屋に引き込まれました。そして参拝してこられた方の御祈念もできなくなりました。

このような状態の中で、どうすれば人の助かるご用ができるだろうかと金光様は天地の親神様と対面され、祈念を込められたのです。そこから神様のお知らせを受けられあの「天地書附」をいただき、そこに示された通りにさせていただけば神様のおかげを受けることができるというお道の神髓を教えられたのでした。

神様は決して無駄ごとはされないと言いますから、この時期に心をしっかり引き締め、神に真を尽くし、信心の稽古をさせていただく時だと思えます。

神に真を尽くす

4月10日、ご本部では天地金乃神大祭が仕えられ、今回は昨年と同様に、参拝は教会から2名までと制限され、若先生と私、そして玉串奉奠代表に選ばれた渡辺さんの3名が、乗用車で参拝させていただきました。他の信奉者は各地から遙拝をするようにとの指示でありました。

ご本部の駐車場に車を止めて歩き出したとき、そばに止めてあった車の中で、本部広前に向かって手を合わせ、ご祈念される女性の姿を目にしました。そのときはただ「拝礼しておられるなあ」と軽い気持ちで通り過ぎました。

私たちは境内にて検温を受け、受付で参拝届けを出し、広前と祭場に入場できる座席カードをもらって会堂に向かいました。広前玄関でそのカードを提示していた時のこと。その側に参拝してこられた4人ほどの方に向かって係



参拝者代表の玉串を奉奠される渡辺さん（左）
（4月10日：御本部祭場にて）

の人が、カードのない方は広前に入場できないとお断りしておられました。祭典日以外なら自由に広前に座って快く拝礼できるのに、今回は3密を防ぐため余儀なく制限されているのです。しかしせっかく参拝して来られたのに、広前も祭場にも入れず、といて境内に参拝用のいすの設置もなく、気の毒だなあと思ったのです。そのとき「そうか！」と気付きました。それは先ほど駐車場の車の中で拝礼しておられた女性が、広前に向かって拝礼しておられたその理由です。「我

が心が神に向かうを信心というのじゃ」と仰せの通り、広前に入られず、少し離れた車の中から、広前に向かって一心に拝礼しておられるその方の真は、そのまま神様に通じると思いました。

信心とはその身から打ち込んでの真でなければなりません。御大祭に参拝のため御霊地まで足を運んではみたが、クラスター防止のため施された処置で、広前に入って拝礼はできないが、乗ってきた車の中からも神様に心を向けて御祈念しておられるその真の心に感動したのです。

真の心は神に通じる

明治4,5年頃、国枝三五郎さんという方が盲目となって、奥様が代理で岡山の倉敷から参拝して祈願しておられました。その後1年半ほどして目が見えるおかげを受けられたのです。その喜びを忘れず真の信心を続けられました。

国枝さんは家の畑で採れた西瓜を教祖様のところにお供えしたいと思立られました。そこで日が明けて西瓜を持って参拝するのですが、暑い時でもあり途中で休憩をしていると、そこに子供連れの巡礼者が通りかかりました。その巡礼者が「どちらへ行かれますか」と聞かれ、「大谷の金神様へ、この初なりの西瓜をお供えしたいと思ひまして」と答えると、その側にいた巡礼の子供が、「わしも金神さまになりたい」といって泣き出したのです。かわいそうにと思った国枝さんは、お供えするつもりであった西瓜をその巡礼者にあげたのです。そして手ぶらになって教祖広前に行きました。しかしせっかくのお供え物が無くなってどうしようかと入り口のところでもじもじしていました。そこへ教祖様がお結界から出てこられ、「西瓜の初なりはすでに神が受け取ったぞ」と言われたそうです。



西瓜の初なりを神様にお供しようと思ったその心は、すでに教祖様の元に届き、神様は受け取ってくださっていたのです。

「我が心が神に向かうを信心というのじゃ」と仰せられていますように、神に真を尽くさせていただきたいと願っていれば、参拝もできるし、お供えをさせていただこうという心も育ち、その心が即座に神様に伝わるのです。

おかげとは真に映る影のこと

「広大なおかげというが、おかげとはめいめいの真に映る影のことであるから、神に大きな真を向けてみよ、大きなおかげがわが身にいただける。小さな真で大きなおかげはもらえない。影は形に添うと決まったものである」と仰せくださっています。

新型コロナ感染症で、ステイホームして家に閉じこもり、楽な方向へと心が向かうのではなく、来たらん春に目を出そうと準備をする樹木のように、しっかりと真のこもった信心をさせていただきたいものです。そこにこそ素晴らしい世の中を築いていくおかげが待っているのです。

おかげをいただいていたの今

平野 和樹（大学4年生）

これからお話しする事は、皆さんご存じかもしれませんが、僕の人生を語るには避けて通れない出来事ですので、しばらくの間お付き合いください。



僕は1999年8月24日に生まれました。なかなかぐっすり眠らない子で、かなり寝る事に関しては手を焼かせたそうです。

そんな僕が小学4年の2009年11月15日交通事故に遭い、頭蓋骨陥没骨折という大怪我を負いました。事故の瞬間は全く覚えていないので、痛かったとか、怖かったという記憶はありません。きっと僕より、事故を目の前で見た幼馴染の方が衝撃を受けたんじゃないかと思います。

自転車に乗っていた小学生の僕と、高齢男性の運転する乗用車との事故だったのですが、事故直後、相手の人は僕の救護もせず誰かに電話をしていたそうです。事故を目撃した周囲の人たちが警察を呼んでくれたり、事故現場の近くの方々がぶつかった音を聞いて飛び出し、タオルを持ってきて頭に敷いてくれたりしたそうです。

後ほど警察から母が言われたことは「人の居るところで良かった」という事でした。もちろん事故に遭ったことは災難でしたが、誰も見ていない所での事故だと、通報もされず放ったらかしにされて、僕の命はなかったかもしれません。

救急搬送後、頭を切開し、頭蓋骨を外し、頭の中に溜まった血を抜く大手術が行われました。執刀医の先生が「上手くできた」と自画自賛される程、手術は大成功したようです。

左脳を打った事もあり、手術後すぐは言葉を言い間違ったり、思い出せなかったりすることもあったのですが、今は後遺症もなく過ごすことができます。

現在も頭蓋骨はプレートで固定されています。このプレートは頭蓋骨の成長によっては再手術で取り除く必要があると言われていました。しかし頭蓋骨が歪いびつになるような成長をする事もなく、再手術の必要はなくなりました。

もし再手術をする場合は、また頭皮を切り、頭蓋骨を露出させて、プレートを取り外すという施術となり、感染症やその他のリスクが大きかったので、再手術をしなくて済んだことに安心しました。

この事故では、本当にたくさんのおかげを頂いて、今の僕の命が繋がっている。

その事に感謝を忘れてはいけないと思っています。

僕は現在大学4年生になり、只今絶賛就職活動中です。本当はこの忙しい時期に体験発表の準備で時間を取られるのは、かなり大変だと不満に思っていました。しかし、学生生活最後の年に勸学祭で話をする事は、24日生まれ(教会の祭典日)で、立教150年記念祭の日に交通事故に遭うという、何か教会とは切り離せない縁がある僕の使命なんだと思い変え、皆さんの前に立たせていただきました。こうして皆さんの前に立った経験が、今後の就職活動に活かせる日が来る事を願いつつ、体験発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

小学校で学んだこと

鍵山 光聡(中学1年生)

小学校での行事や日常生活でたくさんの事を学んできたつもりです。もちろんその6年間の中では楽しい事もあったり、つらい事や腹の立つ事など、いやなこともあったりしました。



小学校に入学してまず心配だったのは給食でした。当時のぼくは、給食を残したらおこられ、食べるのがおそくてもおこられるというイメージをもっていたからです。それだけでなく、牛乳ビンのふたをあけられなかったので、友達にあけてもらえるかなども心配していました。しかし、実際は苦手なものが何度も何度も出るわけではないし、牛乳ビンのふたもあけられない日もありましたが、そんな時は友達があけてくれたので、全然問題ありませんでした。

ある日、図書時間に図書室で本を読んでいると先生が、「このプリントのやり直しをこの時間中にしなさい」と言ってプリントをぼくにわたしました。しかし、ぼくは筆箱を教室に置いてきたため、図書室でプリントのやり直しをすることができませんでした。教室まで筆箱を取りに行こうかとも思いましたが、そんなことをする時間はありませんでした。先生にそのことを言うと先生は、「図書室に筆箱をもってきている人もいるけどな」と言い、ぼくは先生が筆記用具は友達に借りなさい、と言いたいのだなと思い友達に借りることにしました。当初の私には友達がいなかったもので、借りることができるかと心配していましたが、向かいに座っていたクラスメイトが鉛筆と消しゴムを貸してくれました。そのおかげで、何とか時間内にやり直しをすることができました。

六年生になると、修学旅行がありました。一日目は鳥羽水族館に行き、夜は扇芳閣という旅館に泊まらせていただきました。夕食はとても量が多く、食べるのにすごく時間がかかってしまいました。しかし、夕食の後はすぐに水筒を取りに行かなくてはならなかったので、ぼくは急いで自分の部屋に向かいました。向かう途中で部屋が同じの鳥取さんと会い、なんと鳥取さんは自分の水筒を取りにいくついでにぼくの水筒も取ってきてくれました。

考えてみるとこの六年間、いろんな友達に助けられていたことに気がつきました。この六年間で一番学んだことは、両親や先生だけではなく、同級生などの友達にも助けられているという事でした。

これからは、友達を大切にし次はぼくが友達を助けていきたいです。

(令和3年4月12日 勸学祭後、体験発表より)

5月16日(日) 午前10時30分より

天地金乃神大祭奉行

祭典後説教、講題：「おかげの積み重ね」

講師：岸和田教会長 藤島 政安師



5月

21日(金) 信徒共励会 午前10時

24日(月) 月例霊祭執行 午後2時

6月

1日(火) 月例祭執行 午後2時

6日(日) うりわり墓参 午前7時

12日(土) 月例祭執行 午前10時30分

13日(日) 教団独立記念祭 御本部代表参拝
(信奉者は自宅にて遥拝)

18日(金) 信徒共励会 午前10時

24日(木) 月例霊祭執行 午後2時

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

30日(水) 夏越感謝祭執行(人形行事)

午前10時30分

7月

1日(木) 月例祭執行 午後2時

3日(土) 御本部月参拝 午前6時出発

4日(日) うりわり墓参 午前7時

11日(日) 月例祭執行 午前10時30分

16日(金) 信徒共励会 午前10時

12~25日 夏季信行期間

24日(土) 月例霊祭執行 午後2時

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師



式年祭仕えられる

(4月29日)

渡辺君枝霊神様40年祭、渡辺盾幸霊神様5年祭が、当教会において執り行われ、御霊様のご遺徳を偲ばれました。



勸学祭

4月11日

子どもたちがこれまで、無事成長させていただいたことの御礼と、世のお役に立つ人にならせていただけますよう祈念させていただく祭典、「勸学祭」が仕えられました。祭典後、平野和樹さん、鍵山光聡さんが体験発表をされ、最後にお直会として学用品を子どもたちに渡されました。



↑ 参拝した子どもたち全員、玉串をお供えしました



↑ 直会として、学用品をいただきました

トピックス!

テレビ番組に出演

「探偵ナイトスクープ」

松山 岳さん

5月7日に放送された、探偵ナイトスクープに、イリュージョニストGAKUこと、松山岳さんが出演されました。依頼者の女性から、巨漢の主人を持ち上げて離婚したいとの依頼に見事にお応えする内容で、探偵はお笑いコンビの”銀シャリの橋本さん”でした。

